

## ELECTRONIC MAIL DISTRIBUTING SYSTEM

Veröffentlichungsnr. (Sek.)	JP2002374306
Veröffentlichungsdatum :	2002-12-26
Erfinder :	NOMURA YASUTOSHI
Anmelder :	NOMURA BOEKI KK
Veröffentlichungsnummer :	JP2002374306
Aktenzeichen: (EPIDOS-INPADOC-normiert)	JP20010178497 20010613
Prioritätsaktenzeichen: (EPIDOS-INPADOC-normiert)	
Klassifikationssymbol (IPC) :	H04L12/58; G06F13/00
Klassifikationssymbol (EC) :	
Korrespondierende Patentschriften	

### Bibliographische Daten

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To transmit a received electronic mail (e-mail) according to the transmission condition of a receiver side.

**SOLUTION:** This electronic mail distribution system is provided with a transmission side communication terminal 1 for transmitting various kinds of e-mails, a reception side communication terminal 3 for receiving the various kinds of e-mails transmitted from this transmission side communication terminal and a mail server 4 connected between the transmission side communication terminal and the receiving side communication terminal via a network (n). The mail server 4 is provided with a registration part 4a for registering the transmission condition such as a receiving time, according to the attribute or key word of the e-mail and a processing part 4b for transmitting the e-mail to the receiving side communication terminal according to the attribute or key word of the e-mail.

Daten aus der esp@cenet Datenbank -- 12

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2002-374306  
(P2002-374306A)

(43) 公開日 平成14年12月26日 (2002. 12. 26)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テームト* (参考)
H 0 4 L 12/58	1 0 0	H 0 4 L 12/58	1 0 0 F 5 K 0 3 0
G 0 6 F 13/00	6 1 0	G 0 6 F 13/00	6 1 0 F

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2001-178497 (P2001-178497)

(22) 出願日 平成13年 6 月13日 (2001. 6. 13)

(71) 出願人 501237165

ノムラ貿易株式会社

埼玉県行田市持田2221番地

(72) 発明者 野村 泰豪

埼玉県行田市持田2221番地 ノムラ貿易株式会社内

(74) 代理人 100076163

弁理士 嶋 宜之 (外1名)

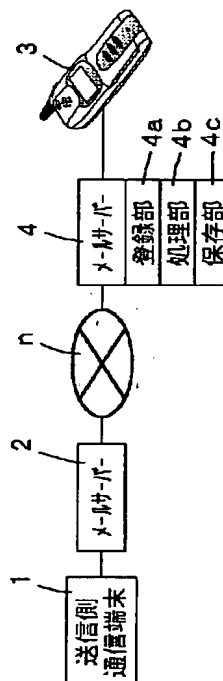
Fターム (参考) 5K030 HA06 KA01 KA07

(54) 【発明の名称】 電子メール配信システム

(57) 【要約】

【課題】 受信した電子メールを、受信者側の送信条件に応じて送信できるようにする。

【解決手段】 この発明は、各種の電子メールを発信する発信側通信端末1と、この発信側通信端末から発信された各種の電子メールを受信する受信側通信端末3と、前記発信側通信端末と前記受信側通信端末との間に通信ネットワークnを介して接続されるメールサーバー4とを備えた電子メール配信システムであって、前記メールサーバー4は、電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の送信条件を登録する登録部4aと、前記電子メールの属性やキーワードに応じた送信条件にしたがって受信側通信端末に電子メールを送信する処理部4bとを備えたことを特徴とする。



# 【特許請求の範囲】

【請求項1】 各種の電子メールを発信する発信側通信端末と、この発信側通信端末から発信された各種の電子メールを受信する受信側通信端末と、前記発信側通信端末と前記受信側通信端末との間に通信ネットワークを介して接続されるメールサーバーとを備えた電子メール配信システムであって、

前記メールサーバーは、電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の送信条件を登録する登録部と、前記電子メールの属性やキーワードに応じた送信条件にしたがって受信側通信端末に電子メールを送信する処理部とを備えたことを特徴とする電子メール配信システム。

【請求項2】 前記処理部は、電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の送信条件を登録するステップと、発信側通信端末から電子メールを受信するステップと、この受信された電子メールを受信者側の通信端末に送信する時間条件が、受信者が指定した時間に達しているかどうかを判断するステップと、を実行する請求項1記載の電子メール配信システム。

【請求項3】 前記処理部は、添付ファイルを受け入れるために受信側端末の能力とファイル形式を登録するステップと、発信側通信端末から電子メールを受信するステップと、この送信された電子メールに添付ファイルがあるかどうかを判断するステップと、この電子メールに添付されているファイルが受信者の指定したファイル形式に合致しているかどうかを判断するステップと、この合致していないと判断された電子メールの添付ファイルを変換できるかを判断するステップと、この変換できない添付ファイルを電子メールから削除するステップと、前記受信者の指定した形式に合致した添付ファイルが容量をオーバーしているかどうかを判断するステップと、この容量を超えた添付ファイルを軽くするステップと、を実行する請求項1記載の電子メール配信システム。

【請求項4】 前記処理部は、受信側端末の受信可能な容量を登録するステップと、発信側通信端末から電子メールを受信するステップと、この送信された電子メールが、受信者が指定した文字数を超えているかどうかを判断するステップと、指定した文字数を超えた電子メールを分割するステップと、を実行する請求項1記載の電子メール配信システム。

【請求項5】 電子メールの属性やキーワードに応じて返信すべきメッセージを登録するステップと、発信側通信端末から電子メールを受信するステップと、この発信側通信端末から発信された電子メールに対して発信者にメッセージを返信するかどうかを判断するステッ

プと、

メッセージを返信する必要がないと判断された電子メールを捨てるか否かを判断するステップと、捨てるにメッセージを返信すると判断された電子メールを保存するか否かを判断するステップと、保存すると判断された電子メールを受信者が後刻受け取りにくるためのスプールファイルに保存するステップと、を実行する電子メール配信システム。

## 【発明の詳細な説明】

### 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、通信ネットワークを利用している利用者同志の連絡に便利な電子メールの電子メール配信システムに関するもので、特に受信者が時間を指定して自己に都合のよい時間に受け取れるようにした電子メール配信システムと方法に関するものである。

### 【0002】

【従来の技術】現在通信端末から通信ネットワーク（インターネット）を介して送付する電子メールは、その迅速性、利便性を有しているため、新しい通信手段として急速に普及している。

【0003】この種の電子メールには、受信者側がで電子メールを受け取る態様によってプッシュタイプとプルタイプとに分けられる。プッシュタイプとは受信者側の通信端末に電子メールが自動的に送信されるものであり、その典型例が携帯電話によるメールの受信である。プルタイプとは電子メールをメールサーバーに一端保存するとともにそれを受信者側が自らの意志で取りに行くもので、パソコンなどによるメールの受信などがこれに当たる。

【0004】上記プッシュタイプでは、受信者側の都合など関係なく、すべての電子メールが受信者側の通信端末に送信されてしまう。また、プルタイプでは、電子メールを取りに行くタイミングを受信者側が自由に選択できるが、メールサーバーにはすべての電子メールが保存されてしまう。したがって、電子メールを取りにいった時点では、すべての電子メールを受けたのと実質的に同じになってしまう。

### 【0005】

【発明が解決しようとする課題】上記のようにした従来のメール配信システムでは、受信者側がその電子メールを受け取る条件を設定できなかった。そのために、迷惑メールが届いたり、受信者側の都合を無視して電子メールが届いたりするという問題があった。特に、プッシュタイプであって受信者側の通信端末が携帯電話の場合には、メールが着信したときに呼び出し音などの着信信号が出力される。しかし、この着信信号が受信者側の都合にかかわらず出力されると、いろいろ不都合を生じることが多かった。例えば、仕事の会議中にプライベートな電子メールが着信した場合などである。また、従来のシ

システムでは、受信側の通信端末の容量などいっさい無視して電子メールがどんどん送られてくるようになっている。そのために、受信者側における通信端末の容量不足が原因で、電子メールが中途半端な状態で途切れたり、文字化けしたりするといった問題もあった。

【0006】この発明の目的は、受信者側において受信条件をいろいろ設定できるようにした電子メール配信システムと方法を提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】この発明は、電子メール配信システムであり、かつ、この発明の上記目的は、各種の電子メールを発信する発信側通信端末と、この発信側通信端末から発信された各種の電子メールを受信する受信側通信端末と、前記発信側通信端末と前記受信側通信端末との間に通信ネットワークを介して接続されるメールサーバーとを備えた電子メール配信システムであって、前記メールサーバーは、電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の送信条件等を登録する登録部と、前記電子メールの属性やキーワードに応じた送信条件にしたがって受信側通信端末に電子メールを送信する処理部とを備えたことを特徴とする、電子メール配信システムを提供することによって、達成される。

【0008】またこの発明の上記目的は、電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の送信条件を登録するステップと、発信側通信端末から電子メールを受信するステップと、この受信された電子メールを受信者側の通信端末に送信する時間条件が、受信者が指定した時間に達しているかどうかを判断するステップと、を実行する電子メール配信システムを提供することによって達成される。

【0009】また、この発明の上記目的は、添付ファイルを受け入れるために受信側端末の能力とファイル形式を登録するステップと、発信側通信端末から電子メールを受信するステップと、この送信された電子メールに添付ファイルがあるか否かを判断するステップと、この電子メールに添付されているファイルが受信者の指定したファイル形式に合致しているか否かを判断するステップと、この合致していないと判断された電子メールの添付ファイルを変換できるか否かを判断するステップと、この変換できない添付ファイルを電子メールから削除するステップと、前記受信者の指定した形式に合致した添付ファイルが容量をオーバーしているか否かを判断するステップと、この容量を超えた添付ファイルを軽くするステップとを実行する電子メールの配信システム提供することによって達成される。

【0010】また本発明の上記目的は、受信側端末の受信可能な容量を登録するステップと、発信側通信端末から電子メールを受信するステップと、この送信された電子メールが、受信者が指定した文字数を超えているか否かを判断するステップと、指定した文字数を超えた電子

メールを分割するステップと、を実行する電子メールの配信システムを提供することによって達成される。

【0011】また本発明の上記目的は、電子メールの属性やキーワードに応じてメッセージを返信すべきメッセージを登録するステップと、発信側通信端末から電子メールを受信するステップとこの発信側通信端末から発信された電子メールに対して発信者にメッセージを返信するか否かを判断するステップとメッセージを返信する必要がないと判断された電子メールを捨てるか否かを判断するステップと、捨てずにメッセージを返信すると判断された電子メールを保存するか否かを判断するステップと、保存すると判断された電子メールを受信者が後刻受け取りにくるためのスプールファイルに保存するステップとを実行する電子メールの配信システムを提供することによって達成される。

【0012】

【発明の実施の形態】図1はこの発明の第1の実施形態を示したもので、送信側の通信端末1はメールサーバー2を介してインターネットnに接続されている。また、受信側の携帯電話3は、メールサーバー4を介して上記インターネットnに接続されている。そして、第1の実施の形態において、携帯電話3に対するメール送信はプッシュタイプを想定している。なお、上記通信端末1を送信側と規定し、携帯電話3を受信側と規定しているが、それはこの実施の形態を説明するための便宜上のことで、それら通信端末1および携帯電話3が送受信機能を備えていること当然である。

【0013】上記した受信側のメールサーバー4には、登録部4a、処理部4bおよび保存部4cを備えている。上記登録部4aは、受信側の携帯電話3にメールを送信するときのいろいろな条件をあらかじめ登録しておくもので、その登録条件として基本的なことは、携帯電話3に送信される電子メールの属性やキーワードなどである。上記電子メールの属性としては、送信先のURL、メールアドレスあるいはメールの件名などである。またキーワードとは電子メールの内容を推定するためのもので、例えば、卑わいな単語などが考えられる。このように、送信されてくるであろう電子メールの属性やキーワードをあらかじめ登録しておくことによって、受信者側において電子メールの取捨選択などの取り扱いを、あらかじめ自由に設定できるようになる。

【0014】さらに、上記登録部4aには、電子メールの属性やキーワードだけでなく、属性やキーワードで特定された個々の電子メールの受信時間を登録したり、受信側の携帯電話3の機種やそのメールアドレスを登録したりできる。このように属性やキーワードで特定された個々の電子メールの受信時間を登録しておけば、あとで説明するように受信者側ではその登録した設定時間に目的の電子メールを受信できることになる。

【0015】また、受信者側の携帯電話3の機種を登録

する目的は、例えば、その携帯電話3の能力で、メールを受信できるかどうかを判定するためである。例えば、送信されてきた情報量が多すぎて、受信側の携帯電話3ではそのすべてを受信できない場合がある。このような場合に、あとで説明する対策を講じるために、受信者側の携帯電話3の機種をあらかじめ登録し、その受信能力をチェックできるようにしている。さらに、登録部4aには、受信者側の携帯電話3で受信可能な形式を予め登録しておくことができる。このように受信可能な様式や容量などを登録しておくことによって、受信不可能な添付ファイルを受信したとき、その添付ファイルを登録してある形式や容量に変換したり、あるいはその受信を拒否したりすることができる。携帯電話の台数を登録するのは、送信されてきた同一の電子メールをいくつもの携帯電話に配信するときに必要とされるものである。

【0016】さらに、上記登録部4aには、いろいろな条件をあらかじめ登録しておくことができるが、例えば迷惑メールをあらかじめ登録しておくこともできる。迷惑メールかどうかを判定するのは、主に送信者側のメールアドレスやURLをもとにすることができる。このような迷惑メールに対しては、あるいは迷惑メールであることが明瞭な単語、お断りメッセージもあらかじめ登録できるようにしている。なお、上記メッセージは、必ずしも迷惑メール用に限らない。現在休暇中でメールを見ることができないなど、受信者側の状況を送信者側に伝えるものであれば、どのようなものでも登録しておくことができる。その他特定のメールのみを受信するための条件や受信を拒否すべき条件なども登録することができる。

【0017】上記処理部4bは、登録部4aに登録された送信条件にしたがって受信側の携帯電話3に電子メールを送信するためのものである。つまり、この処理部4bは、インターネットnから電子メールを受信したら、その電子メールが登録部4aに登録された属性や内容に該当するかどうかを判定する。

【0018】この属性や内容等によって、例えば迷惑メールと判定すれば、処理部4bはそれを携帯電話3に送信しないようにする。つまり、処理部4bは、そのメールアドレスやURLやキーワード等に応じて、メールの属性や内容を特定するとともに、その特定された属性や内容に対応した条件を実行するものである。したがって、携帯電話3に送信すべき時間条件があらかじめ設定されていたら、その時間にあわせて送信したりする。

【0019】さらに、この処理部4bは、送信されてきた情報のすべてを、登録部4aにあらかじめ登録された機種で受信できるかどうかも判定する。もし、受信側の携帯電話3に容量不足があれば、その送られてきた電子メールの情報を軽くして当該電子メールを送信する。なお、情報を軽くするとは、送られてきた電子メールの階調性や解像度などを落としたり、表などの場合にはその

罫線を削除したりするなどのことである。また、添付ファイルのファイル形式が指定された形式にあっているかどうかも判定することができる。

【0020】メールサーバー4に設けた三つ目の機能を果たす保存部4cは、送信されてきた電子メールを一時的に保存するためのもので、スプールファイルAとスプールファイルBとを備えている。スプールファイルAはいわゆるプルタイプ対応のファイルで、受信者側がメールサーバー4にアクセスしたときに、それを見ることができるようにするためのものである。また、スプールファイルBは、いわゆるプッシュタイプ対応のファイルで、例えば、送信されてきた電子メールに受信者側の時間条件が登録されていたとき、処理部4bがその電子メールを上記スプールファイルBに一時的に保存しておく。そして、時間条件を満たした段階で処理部4bがスプールファイルBから当該電子メールを取り出して携帯電話3に送信するものである。

【0021】次に、図2に示したフローチャートにしたがって、電子メール配信方法について説明する。なお、図中に使用されているS1、S2・・・は手順（ステップ）の番号を示す

ステップS1において、受信者は携帯電話3を使用してメールを受け取るための数々の属性やメール受信条件等をメールサーバー4の登録部4aに登録するが、その受信条件の内容に関しては前記したとおりである。

【0022】ステップS2において発信側から電子メールが送信されてくると、ステップS3においてこの電子メールに対して、メッセージを発信側へ返信するか否かを処理部5bが判断し、メッセージを返信する必要があるものは、受信者からの指定されたメッセージを発信者へ返信する（ステップS4）。なお、上記返信メッセージとして、例えば、迷惑メールに対して「今後のメール送信をお断りします」といったものが考えられる。また、一定期間を特定して、「その期間内にはメールを見ることができません」といったこともできるし、時間をあらかじめ指定して「～時までにはメールを見ることができません」といったメッセージを返信することもできる。

【0023】ステップS2においてメッセージを返信する必要がないものと判断されたものは、ステップS5において送信されてきた電子メールを捨てるか否かを処理部4bが判断する。ステップS5において捨てるか判断された電子メールは、ステップS22において捨てられるが、電子メールを捨てるとは、その受け取りを拒否するだけである。

【0024】処理部4bが登録条件をチェックして当該電子メールを捨てる必要がないと判断したときには、ステップS6においてその電子メールを保存するかどうかを処理部5bが判定し、保存の必要性があるときには、スプールファイルAにその電子メールを保存する。この

ようにスプールファイルAを作成するのは、受信者側から、必要なときにその電子メールをプルできるようにするためである。言い換えると、受信者側が後日再度見たいような電子メールは、このスプールファイルAに保存される（ステップS7）。

【0025】次に、ステップS8に移行し、当該電子メールに対して時間条件が付けられているかどうかを処理部4bが判定する。つまり、その電子メールを携帯電話3に即時に送信すべきか否かを判定する。時間条件が付けられているときには、処理部4bがその電子メールを保存部4cのスプールファイルBに保存する（ステップS9）。そして、処理部4bは、ステップS10で指定された時間がきたかどうかを判定し、指定された時間になったらステップS11に移行して、当該電子メールに添付ファイルがあるかどうかを処理部4bが判定する。上記ステップS8において即時送信が可能と判定された場合には、上記ステップS11に直接移行することになる。

【0026】ステップS11において添付ファイルがあると判断された電子メールは、ステップS12において、その添付ファイルが受信者の指定した形式のファイルであるか否かが処理部4bで判断される。受信者の指定したファイル形式でないと判断された添付ファイルは、ステップS13において添付ファイルが変換できるか否かを判断される。ステップS13において変換可能と判断された添付ファイルは、ステップS15において添付ファイルを変換する。変換された添付ファイルはステップS16においてその容量がオーバーしているか否かが判断される。またステップS13において、変換できないと判断された添付ファイルは、ステップS14において添付ファイルが削除される。添付ファイルが削除された電子メールは、ステップS18において受信者が指定した文字数を超えているか否かが判断される。前記ステップS12において受信者が指定したファイル形式に合致した添付ファイルは、ステップS16において、その容量がオーバーしているか否かが判断される。容量がオーバーしていると判断されたものは、ステップS17において容量を軽くする。

【0027】ステップS16において、容量が適量であると判断された電子メールは、ステップS18において受信者が指定した文字数を超えていないかが判断される。指定した文字数を超えていると判断された電子メールは、処理部4bがステップS19において指定文字数に分割する。指定文字数になった電子メールは、ステッ

プS20において送信先アドレスに振り分けられる。この送信先アドレスの振り分けとは、受信者の条件に応じて受け取り先を複数指定した場合のことである。ステップS20で振り分けられた添付ファイル付き電子メールは、ステップS21において受信者に送信される。

【0028】なお、図1に示した第1の実施態様は、受信側の通信端末を携帯電話3にしているが、この発明では、通信端末を携帯電話に限定する必要はない。例えば、図3に示すように、メールサーバー4にコンピュータ等からなる通信端末5を直接接続してもよい。また、送信側においても、その端末がコンピュータであっても携帯電話であってもよいものである。要するに、この発明としては、受信者側のメールサーバー4に、すでに説明した機能を備えていればよい。

#### 【0029】

【発明の効果】以上説明したように、この発明のメールサーバーは、電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の条件を登録する登録部と、前記電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の条件にしたがって電子メールを送信する処理部とを備えた電子メールを設けたので、的確に効率良く必要な電子メールを受信者へ送信することができると。またこの発明は、時間を指定して電子メールを受信することができるので、自己に都合のよい時間に確実に電子メールを受信することができる。さらに送信されてきた電子メールに添付ファイルがある場合、その添付ファイルが、受信者が指定したファイル形式に合致して送信されるので便利である。その上送信された電子メールが、受信者が指定した文字数を超えていても、文字数を分割して送信することができる。また送信された電子メールをスプールファイルに保存しておるので、後刻都合のよい時間に受け取ることができる等の効果がある。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】電子メール配信システムの第1の実施形態を説明する説明図である。

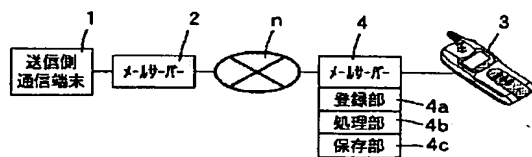
【図2】この発明の電子メール配信方法を説明するフローチャートである。

【図3】電子メール配信システムの第2の実施形態を説明する説明図である。

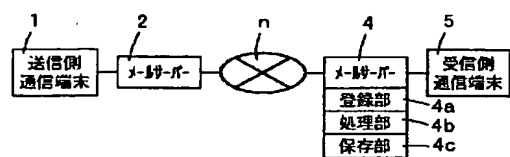
#### 【符号の説明】

- |     |          |
|-----|----------|
| 1   | 発信側通信端末  |
| 3、6 | 受信側通信端末  |
| n   | 通信ネットワーク |
| 2、4 | メールサーバー  |

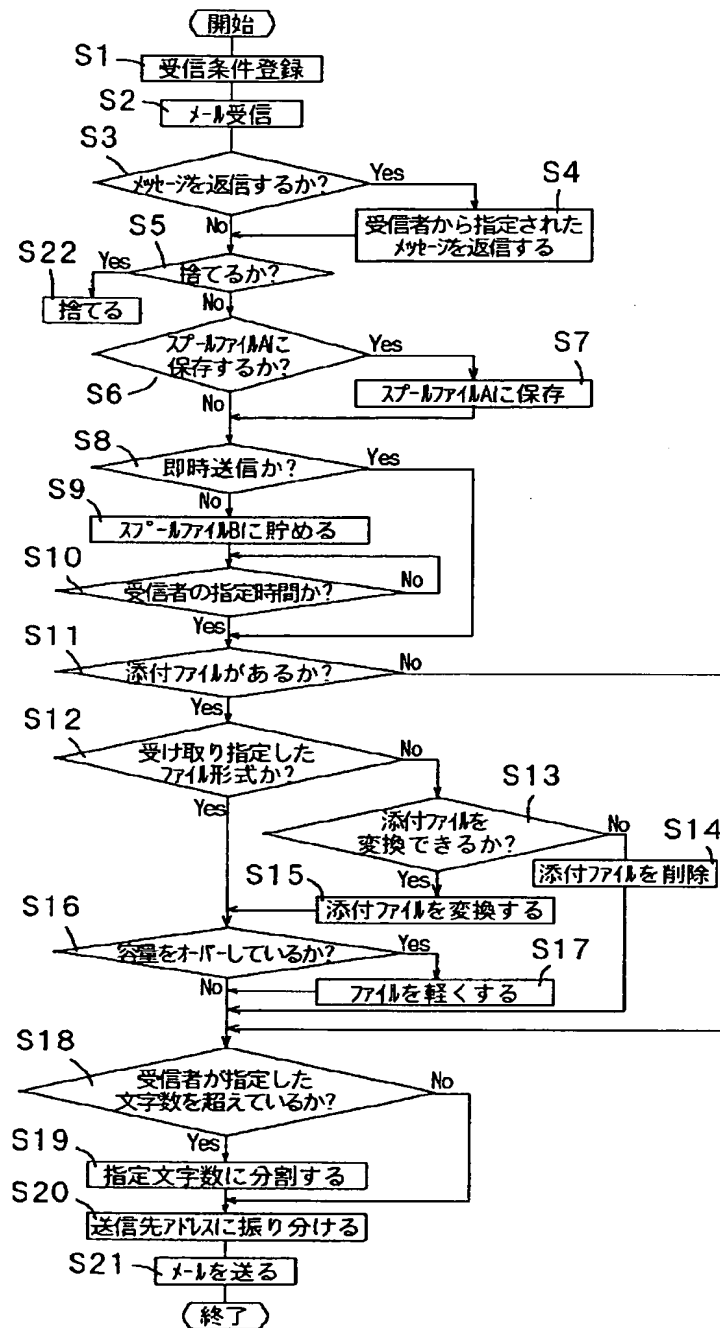
【図1】



【図3】



【図2】





【手続補正書】

【提出日】平成13年6月15日(2001.6.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正内容】

【0002】

【従来の技術】現在通信端末から通信ネットワーク(インターネット)を介し送信する電子メールは、その迅速性、利便性を有しているため、新しい通信手段として急速に普及している。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正内容】

【0003】この種の電子メールには、受信者側が電子メールを受け取る態様によってプッシュタイプとプルタイプとに分けられる。プッシュタイプとは受信者側の通信端末に電子メールが自動的に送信されるものであり、その典型例が携帯電話によるメールの受信である。プルタイプとは電子メールをメールサーバーに一端保存するとともにそれを受信者側が自らの意志で取りにいくもの

で、パソコンなどによるメールの受信などがこれに当たる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正内容】

【0029】

【発明の効果】以上説明したように、この発明のメールサーバーは、電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の条件を登録する登録部と、前記電子メールの属性やキーワードに応じた受信時間等の条件にしたがって電子メールを送信する処理部とを備えたので、的確に効率良く必要な電子メールを受信者へ送信することができる。またこの発明は、時間を指定して電子メールを受信することができるので、自己に都合のよい時間に確実に電子メールを受信することができる。さらに送信されてきた電子メールに添付ファイルがある場合、その添付ファイルが、受信者が指定したファイル形式に合致して送信されるので便利である。その上送信された電子メールが、受信者が指定した文字数を超えていても、文字数を分割して送信することができる。また送信された電子メールをスプールファイルに保存しているので、後刻都合のよい時間に受け取ることができる等の効果がある。